

さとわ

No.22

さとわ

緩和ケア病棟「郷和」理念

1. 豊かな自然環境の中で、その人の気持ちに添ってケアするとともにその家族を支援します。
2. その人のもつ苦痛の緩和につとめます。
3. その人の希望に添って自宅での生活を支援します。



「郷和」より春のお便り

施設長 篠川 主

郷和の入院相談にお見えになる御家族様の多くに「桜が咲くまで大丈夫でしょうか」とお尋ねになられる方が時々ございます。郷和は国内でも有数の桜の名所と言われている村松公園の目の前に位置する、南部郷厚生病院の独立型緩和ケア病棟です。そこに入院するからには人生の最期のひと時を、満開の桜の下で過ごしてもらいたいという御家族様の願いが感じられます。多くの和歌などにも歌われておりますように、桜の散り際の潔さは日本人の死生観の琴線に触れるものがあるのだと感じます。郷和に入院されベッドに横になったまま屋外に出て満開の桜の下で御家族様と共に満面の笑みを讀ませておられる方もございます。一方桜は新しい生活が始まる方にとっては、そのスタートを祝う、応援してくれる花でもあります。桜は散っても季節は廻り、また春が来ます。また桜ばかりでなく多くの生き物が郷和の周囲で命を育まれております。中には入院されておられる方より短い生涯を閉じるものもあります。

郷和で育てているキュウリやトマトを見つけて、明日はどれほど成長しているのかと期待や希望を抱いて庭を散策される方もおられます。それ故、郷和で咲く花や、実をつけてくれる野菜達も大切に育てなければと思っております。不治の病を患っても明日への希望を抱けるものがあるということは素晴らしいことです。

桜が咲く時に入院しているだけで笑顔になれるものではありません。患者様に寄り添って心から穏やかに過ごして欲しいと願う御家族様がおられればこそ、辛い病状にあっても嘘のない笑顔が生まれると思います。全ての御家族様が一緒に過ごせる時間的余裕があるわけではありませんし、間もなく旅立たれそうな患者様との接し方に苦労される方もおられると思います。病棟もスタッフの数に十分余裕があるとは申しませんが、できる限り入院される方々に寄り添い、いかなる季節であっても笑顔を頂けるように努めて参りたいと思っております。

会話のルールと0.2秒の間

南部郷厚生病院 緩和ケア内科部長
齋藤 俊一

会話をしているときの「間」は平均0.2秒なんだそうです。ずいぶん短いと思いませんか。陸上や水泳競技ではスタートの合図から0.1秒未滿で反応してしまうと「フライング」になります。人間の反応の限界が0.1秒というところから決められているそうです。日本語は肯定なのか否定なのか、時制が現在か過去か、語尾で変わります。倒置法で主語が最後にくることもしばしば。それを踏まえての0.2秒という短さ。逆に「間」があくのはどんなときだろうと考えます。研究では、肯定的な答えのときは「間」が短く、否定的な場合は倍くらい「間」があくんだそうです。ひとに何か頼まれたときに、OKなら「はい」と即答してしまうのは「間」の短さで受け入れる気持ちをより強調し、逆に間があくときは「ちょっと難しい…」と感じてしまうのはそのためです。沈黙が気まずいのも、「間」があくときには否定的な会話になることを予測するからかもしれません。

最近、「語用論」という分野を知りました。簡単に言えば会話で言葉がどう使われ、どう理解されるかを研究する学問。会話はランダムにやりとりされているように感じますが、おもしろいルールで成り立っていることがわかってきました。その一つにグライスの「協調の原理」というのがあって、それによると会話は4つの公理から成り立っているんだそうです。「原理」とか「公理」ときくと難しそうですが、1.「量の公理」。必要な量の情報を提供する。多すぎても少なすぎてもいけない。2.「質の公理」。嘘や根拠のないことは言わない。3.「関連性の公理」。会話のテーマに関係のないことを言わない。4.「様式の公理」。相手にわかりやすく、不明確な表現や曖昧なことを言わない。



Herbert Paul Grice
ポール・グライス

もうひとつ、シェグロフとサックスの「隣接ペア」というのがあります。会話では「挨拶」には「挨拶」で返し、「質問」には「回答」、「招待」には「受諾か拒否」、「不服・不満」には「謝罪」とか、適切な応答の組み合わせで返すというルール。逆にこれに反して、例えば来訪者に自分が「こんにちは」と挨拶した場面で、挨拶が返ってこずに「この部屋は暑いね」と返されたら『エアコンをつけて涼しくしてほしい』という別の意味を含んでいるかもしれない、みたいなことです。



言われると当たり前のようでいて、なるほどとも思います。わたしたちはこういう構造で会話が進行するのを無意識に理解しているから、0.2秒の「間」でやりとりできるんですね。

こういうことを知ってから、「間」というものをより意識するようになりました。「ひとの話は最後までよく聞きなさい」と言われて育ちました。傾聴は待つことが大事とも教えられました。なるべく相手の言葉をよく聴いて、被らないように一呼吸おくぐらいの気持ちでいます。それでもたかだか0.数秒くらいの間合い、そのわずかな「間」にも意図を感じとってしまうのが日常会話のようです。気の短い私は、今日もちょっと待てなかったなと思いがらいます。

昨年度より緩和ケア病棟に異動し

南部郷厚生病院 緩和ケア病棟 看護師長
渡邊 陽子

昨年度、緩和ケア病棟「郷和」に異動し、早いもので一年が経ちました。この一年間で多くの患者様・御家族様にお会いすることができました。春は患者様と近隣の村松公園に出かけ満開の桜を眺め、夏には庭で育てた野菜を患者様、御家族様と一緒に収穫しました。また、月に一度開催される行事では、患者様・御家族様、ボランティアスタッフも一緒に夏祭りや、コンサート、クリスマスなど季節を感じることができるような行事を行い、患者様・御家族、スタッフともに楽しいひと時を過ごすことができました。「郷和」は自然豊かな環境にあり、患者様・御家族様が落ち着いた環境で過ごすことができるようになっております。

「郷和」では、医師・看護師だけでなく、様々な職種やボランティアスタッフと協力し、患者様だけでなく、御家族様の苦痛のケアも行っております。患者様・御家族様の想いに寄り添い苦痛の緩和に努めます。そして、「患者様が、患者様らしく生きる」こと。大切な方々と穏やかな時間をすごすこと。そのお手伝いをさせていただきたいと思っております。

医療相談員より

南部郷厚生病院 医療相談員
関根 徹

緩和ケア病棟では、患者様と御家族がその人らしく過ごせる時間を大切にしています。

相談員は、病気や治療に関する不安だけでなく、生活や心の悩みにも寄り添い、安心していただける環境づくりを心がけています。

「これからのことが心配だ」「家族とゆっくり過ごしたい」「自宅に帰りたいがどうすれば良いか」

「経済的な面で不安がある」など、一つひとつお話を伺いながら、今後の過ごし方を一緒に考えていきます。必要に応じて、医師や看護師、リハビリ、薬剤師、栄養士など多職種と連携し、より良い支援につなげていきます。

「こんなこと聞いていいのかな」ということでも構いません。どうぞ遠慮なくご相談ください。

緩和ケアは“最期の場”ではなく、“自分らしさを取り戻す場”です。患者様と御家族が穏やかな時間を過ごせるよう、これからも支援を続けてまいります。

新入職員より

南部郷厚生病院 緩和ケア病棟 看護師
帆苅 彩歌

二月より郷和に入職となりました。患者様本人だけでなく、御家族様の心の支えとなる看護を提供することを目標としてきた私にとって、初めての緩和ケアは難しさを感じると同時に、日々やりがいも感じながら患者様や御家族様に関わらせていただいております。患者様の苦痛を薬剤で緩和することはもちろん、薬剤以外の方法でも苦痛を緩和することができないか考え、患者様本人や御家族様が最期までよりその人らしく、その家族らしく過ごせる時間をもつために、私には何ができるのかを日々考えながら看護を提供させていただきたいと考えております。

リハビリテーション科より

南部郷厚生病院 理学療法士
地濃 千穂

緩和ケアのリハビリは、厳しい訓練ではなく、「今のつらさを和らげること」を最優先に考えていきます。心身に負担をかけず、穏やかな日常生活を維持するためのサポートです。専門職が患者様や御家族様の願いに寄り添っています。

＊理学療法士（PT）：痛みの少ない姿勢や体に負担のない楽な移動方法を提案します。

＊作業療法士（OT）：着替えや趣味など、日常生活をより楽に行う工夫を一緒に考えます。

＊言語聴覚士（ST）：安全に食べるためのケアや大切な人との会話を支援します。

がんばるリハビリではなく、楽になるためのリハビリを一緒に行い、自分らしく過ごせる時間を提供していきたいと思います。お気軽にご相談ください。

御家族のケアも看護の一つです

南部郷厚生病院 緩和ケア病棟 看護師
熊倉 友子

「ここに連れてこられて本当に良かったです。」
「もっと早くにここに来られたら良かった。」と、退院の際に御家族に言われることが多くあります。また「少し話を聞いてもらいたくて寄ってみました。」と退院後、病棟に立ち寄ってくださる御家族様もいらっしゃいます。患者様はもちろん、御家族の皆様も看護の対象として私たち看護師は日々関わらせていただいております。一人一人の人生があると同じように診断から治療や療養先の選択など患者様と共に御家族の皆様も多く悩まれ、時には立ち止まりながら時を過ごして来られたと思います。悲しみは死別後に突然訪れるものではありません。大切な人を失う現実と直面し「予期不安」という形で心は揺れ動きます。不安などと向き合いながら患者様と御家族が過ごす時間をよりよい時間にするように、そしてこれからも御家族様方が穏やかに過ごせますようにサポートさせていただきたいと思います。



2025年度 実施行事

4月	お花見	10月	コースター作成
5月	端午の節句	11月	焼き芋
6月	菖蒲湯、梅ジュース、 歌コンサート	12月	ゆず湯、クリスマス会
7月	七夕、ライアー演奏会	1月	鏡開き、初釜
8月	夏祭り	2月	節分
9月	長月コンサート	3月	ひな祭り、オカリナ演奏会

「郷和」利用状況

(2025年4月～2026年3月)

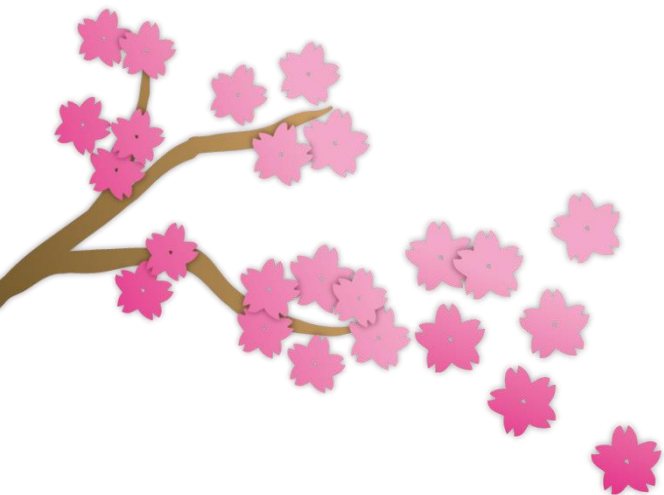
入院患者数	77人
-------	-----

退院患者数	81人
(死亡退院)	80人
(自宅退院)	1人

一日平均入院利用者数	14.4人
------------	-------

平均病床利用率	71.8%
---------	-------

平均在院日数	86.8日
--------	-------



発行年月 2026年6月

編集・発行 南部郷厚生病院

緩和ケア病棟「郷和」

〒959-1765 新潟県五泉市愛宕甲2925-2

TEL(0250)58-6111(代) FAX(0250)58-7300

ホームページ <https://www.sinjinkai.or.jp/kanwa/>

メールアドレス kousei@sinjinkai.or.jp